

公立病院の使命 広報げろ 2009.11

公立病院の使命

◎国民皆保険制度

地方の公立病院の多くは戦後の復興期、国民の健康を守るために設立され、医療保険制度の普及と呼応するように国の支援のもとに整備が進み、昭和 36 年には誰でもいつでもどこでも医療を受けられるという理念のもとに国民皆保険制度が達成されました。

◎下呂市立金山病院の沿革

下呂市立金山病院もこの理念にこたえ地域の医療の均衡を図るため国の支援を責任を持って果たすべく、金山町長を開設者として昭和 32 年、従来当地にあった赤十字社岐阜県支部金山赤十字病院が移管され金山町立金山病院として発足しました。

益田郡、郡上郡、加茂郡、武儀郡の 4 郡にまたがる地域の医療を担う病院として維持され、昭和 34 年金山町国民健康保険病院、平成 16 年広域合併により下呂市立金山病院となって現在に至っています。

◎下呂市立金山病院の運営費

運営費は受診料と国からの財政措置（交付税）によって賄われ、地域の要望にこたえながらも身の丈に合った最低限必要な設備でもって運営されています。これができるのもより高次の機能を持った県立下呂温泉病院が在るからにほかなりません。

病院には交付税が投入されているので開設者（下呂市長）は下呂市の住民ばかりでなく診療圏全体の住民のためにも病院を運営していく使命を負っています。

◎健康診断、人間ドック

病院は乳がん検診などの住民健診の一部、職場健診、人間ドックなどを積極的に行い地域に貢献しています。病院の入院や外来の収入は、診療報酬の引き下げのため低迷しておりこれからの病院運営のために健診から得られる収入は大きな支えとなっています。

◎救急医療

病院のもっとも大きな使命の一つに救急医療があります。下呂市立金山病院は昭和 55 年救急告示病院の指定を受け常時救急患者に対応しています。しかし、いざという時のための救急医療を備えるだけでは病院は運営できません。救急医療は病院の健全な日常診療を維持し、県立下呂温泉病院との病病連携を密にすることによってのみ可能です。

◎地域貢献度

安心して暮らすために病院はなくてはならないものと考えます。現在、下呂市立金山病院では 100 人以上の人が働いています。病院は大きな雇用の場となっており、下呂市の維持に貢献しています。現在マンパワーの不足により病院収入が減少しています。病院を維持するには市民の皆さんの支えが必要です。病院では働き手を募集しています。皆様のご協力をお願いいたします。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦